

甲斐の金山から

令和3年6月25日 第96号

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

金を<sup>きん</sup>を

狙った獲物<sup>きん</sup>は逃さない

ウイルス<sup>きん</sup>を制して

制す!

2021.7.24

THE GOLD DANNING  
砂金掘の大会

# 湯之奥金山遺跡群をとりまく文化的景観を考える

—その入り口にある湯之奥集落における景観の構成要素などの点描—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

この稿を企画していた6月中旬に、ある課題があって、湯之奥金山遺跡群のある山中に源流を発する下部川に沿って、当館から自動車です15分ほど遡上したところに所在する湯之奥集落を訪ねることがありました。その折りに目にした光景の中から、これまであまり想うことがなかった「文化的景観としての湯之奥」という考えが沸々とわいてきたのでした。今回はそれがどんなものなのかをつづってみたいと思います。

湯之奥の地は、歴史的な保養地である下部温泉郷のその奥にあることから、その名があるといわれています(『角川日本地名大辞典』の「湯之奥」の項=19巻828頁など)。そして当館がテーマとする湯之奥金山遺跡群のお膝元に当たり、戦国期に初源を有する金山経営に深く関わってきた経過をもつところでもあります。

湯之奥の集落というと、まず思い浮かぶのは重要文化財「門西家住宅」(昭和39年5月29日指定)ではないでしょうか。その明確な建築年代は不明とされつつも、建築様式から江戸時代中期と見られ、富士川流域に特徴的な入母屋造の茅葺きの農家形式となっています。この歴史的建造物の主である門西家は、古くは佐野姓を名乗っていて、戦国期には穴山氏に属していた

ようです。慶長2(1597)年に門西に改姓、江戸時代には代々湯之奥村名主を務め、同時に関守に当たってきた関係もあって多くの文書群も伝わっています(「門西家所有穴山信友判物外」町指定書跡)。また関係する文書の他に、産金に使用されたせり板やフネなどの道具(町指定考古資料)もあって、金山経営との関わりも指摘され、湯之奥金山を考える上でたいへん重要な位置を占めています。関係資料の一部は、当館の常設展示の中で目にすることが出来ます。

以前は感覚的に、湯之奥って、金山遺跡群と重文古民家、それ以外に何かあるだろうか、という受け止めをしていました。しかし今回、そんな中途半端な認識をあらためさせられる時間をもつことができたのです。

1つは湯之奥集落を見下ろす位置にある山神社で、かつて山稼ぎで暮らしを立てていた地域に一般的に存在するものですが、湯之奥山神社も妻を前面に向ける拝殿とその後ろに座る本殿とで、こぢんまりと構成されています。参道から社殿まわりまでの社叢も落ち着いた雰囲気を見せ、ことに参道東斜面には町の天然記念物のウラジロガシの群生も注目されます。

2007年刊行の『身延町の文化財ガイド』の「湯之奥群生ウラジロガシ」の項目に添えられてい



2021年6月の湯之奥集落の点描

①門在家住宅 ②山神社前から見た集落 ③山神社参道 ④願掛け地蔵 ⑤ハリグワ

る「みすきちゃんから」のコメントに、「さらにここから上がっていくと願掛け地蔵がある」とされている祠も、かつては金山のあった山中に祀られていたのを降ろしてきたとされ、湯之奥に伝わった信仰世界の奥行きを示しています。

集落背後の斜面には、戸ごとの畑地が集まっていますが、そのなかに古い家墓が点在するのも、山間の集落の前近代の姿をとどめるものといえます。その畑地の外れにはハリグワのまとまりがあって、養蚕が盛んだった時分にハリグワの葉を使っていたことが偲ばれるものとなっています。

これらの要素は、従来、集落の玄関口側からだけ見ていた景観を、視点を変え背後の方から見たことから認識できたもので、時代の積層のなかで醸し出された文化的景観となっていると気づかされたのでした。

文化的景観とは、1972年に成立したユネスコの世界遺産条約によって普遍的な価値を有

する遺産を順次登録していく取り組みの中で1990年代の初めに登場してきた考え方です。人と自然との相互作用の中で培われた景観で、歴史的景観と表裏一体をなすものと理解されています(『ウィキペディア』の同項)。こうしたことを受け国内でも2005年の法改正で、文保法第2条第1項第5号にもりこまれています。

多岐にわたるこの国の文化財の中にあって、たいへん新しい領域で、そのためか、なじみの薄い感がありますが、世界人類の普遍적인見方であることから、湯之奥集落のようなところにもしっかりと当てはめることができると思われます。いま、湯之奥集落は限界を超えつつあります。ですから今こそ、そうした視点を指摘し、国の選定を受けるとか以前のこととして、できることをしておきたいものだと考えたしだいで、これなくして湯之奥金山遺跡群の理解も必要十分とはいえないと思われるところで



## これからの館長講座と「いでさんぽ」のご案内

今後の開催予定です。詳細は博物館ホームページなどでご確認ください。

### 第18回 館長講座 シリーズ 峽南の考古学

日時: 2021年 6月27日(日) 13時30分～  
「峽南から見た1521年の歴史展望①—信虎の杞憂」  
※第19回は、8月22日(日)予定

### 第10回 アウトドア版館長講座 いでさんぽ

日時: 2021年 8月28日(土)  
散策地: 下山・クラフトパークーえんしょうぐらーを訪ねて  
※現地集合・現地解散、詳細は決定次第周知します。

## 出月館長に相談しよう!! 「夏プロ in 金山博」

毎年恒例の金山博物館館長による自由研究お助けプログラム。今年も開催★悩んだらまず博物館にGO!

開催日時: 2021年 7月18日(日)～8月22日(日)の間の館長在館中  
午前10時30分～12時30分と午後3時～4時30分

# 活動報告

## 開館24周年

4月24日(土)

平成9年4月24日「湯之奥金山博物館」が開館しました。下部温泉郷写真展第2弾と、砂金採り体験室では純銀粒も採れる「GET GOLD& SILVER」を館内イベントとして開催しながら、この日、24回目の開館記念日を迎えました。

皆様方に支えられて約四半世紀という長い年月の博物館活動にも、多くのご理解とご評価をいただき、町民の方はもちろん、県内外からのお客様も気軽にお立ち寄りいただける博物館になっています。「そんなに古く思えない」、「きれいな施設ですね」、「展示も分かりやすく素敵です」とお褒めのお言葉をいただけることもスタッフのモチベーションにもなっています。

新型コロナウイルスの影響を大いに受けている今ではありますが、そうしたお声や期待に沿えるよう、年数の経過に関わらず最新の鉱山情報を織り交ぜながら、金山・鉱山専門のガイドダンス館としてトップランナーであり続ける意識で、展示公開、情報公開をしていますので、ぜひ一度足をお運び頂きたいと思えます。

一つの節目を迎えてまたその先の未来へ、これからも金山の歴史と合わせ地域に根差した歴史も伝えていけるよう、楽しい時間を過ごせるよう、そして「あの博物館が好きだ」と言っていただけの施設づくりと活動を推進していきます。

## 2021年度 館長講座&いでさんぼ

4月～6月



「峡南の考古学」をテーマに、月一度のペースで館長講座、そして2か月に一度のペースでアウトドア版館長講座の「いでさんぼ」を開催しています。4月18日(日)、5月23日(日)の館長講座は、「峡南の中世史にみる活躍した女性たち」パート1とパート2として、この峡南地域に縁ある女性をとりまくお話がありました。今回の主役はお萬の方。徳川家康の側室であり徳川御三家のうち、紀州家と水戸家の生みの親ともいえる立ち位置。つまり、この人がいなければ水戸のご老公も、暴れん坊将軍も考えられないのです。お萬の方(養珠院)と身延山の関係や彼女をとりまく当時の歴史や情勢など、わかりやすい講義が展開されました。

いずれも感染症対策の観点から座席数を減らし、90分間の時間も少し短くした形での開催でしたが、回数を重ねるごとに口コミでファン



も増え、地元の皆様を中心にお運びいただいています。

これらの講義を受けて、5月8日の第9回「いでさんぼ」の探訪地は早川町の春木川上流。女性の入山が認められなかった時代に、初めて七面山にお参りした女性として知られる養珠院さんですが、赤沢宿登山道入り口に鎮座する養珠院さん立像と、七面山参詣前に身を清めたと伝えられる「羽衣の白糸の滝」を訪ね、地域の歴史を皆で知る機会となりました。

「館長講座」も「いでさんぼ」も、その内容はそのコマごとに楽しめます。また、歴史は意外なところでつながっているの、継続的に受講していると、前回出てきた人がこんなところにも、あんな有名な歴史上の人物がそんなことを、と歴史的雑学も深めることができおもしろさ倍増。おススメです。(次回開催内容詳細は本紙3ページにて)



第8回「いでさんぼ」から信仰の山・七面山の麓にある白糸の滝（雌滝）と養珠院さんの像

## もーん父さんオンライン配信で博物館PR

4月17日(土)



ステイホームとイベント自粛で、キャラ界でもオンライン配信が主流になりつつあります。過日、全国47都道府県のご当地キャラによるオンライン生配信がありました。全国数多くのキャラが活躍している中で、1県1キャラの中、もーん父さんが山梨県代表キャラに選ばれ、5分間のPRタイムの中で山梨と金山博物館を

しっかり紹介し、無事に成功を収めました。

もーん父さんの軽快な動きとスタッフの明快な解説による博物館PR映像は、YouTubeチャンネルアーカイブで視聴可能です。見逃した方、ご興味ある方、YouTube → 「つなげ！47PR」で検索。ご覧ください。

## 写真でみる下部温泉郷～その2 昭和発展期

4月11日(日)～5月31日(月)



写真を通して温泉郷の歴史を広く知ってもらおうと下部区・下部公民館のみなさんが企画した下部温泉郷写真展が、約一か月半の会期で開催されました。前回から時代が少し下った昭和初期の下部温泉郷のようすや、この時代に下部温泉を好んで訪れた昭和の文豪たちなど、約30点の写真が並びました。写真の前で偶然居合わ

せた方同士で、下部にまつわる思い出話に花が咲くというような一幕も多々見受けられ、地元根差したよい企画となりました。

皆さんの関心が高く、地元新聞やテレビニュースでも取り上げられたこともあり、連日多くの方にお運び頂き、大好評で閉幕しました。

## ゆるキャン△展示

博物館エントランスで、「ゆるキャン△」関連展示が4月からスタートしています。アニメ限定グッズや、ドラマロケ地である当町ならではのキャストさんの直筆サインや、サイン入り台本など、ここにしかない貴重なグッズが盛りだくさんです。アニメ「ゆるキャン△」でキャラクターたちがほっこりした“黄金の足湯”も、聖地巡りの一環で多くのファンが訪れています。足湯と合わせてこちらの展示もぜひご覧ください。



## 土肥金山(伊豆市) 現地調査

日本を代表する金山として、一般にも広く知られているのが、佐渡金山と並んで西伊豆の「土肥金山」。同金山は伊豆半島の西端に位置し、東西1km、南北2km程の範囲に10以上もの鉱脈がある近代鉱山です。近代の大開発が入っている土肥金山の坑道は非常に大きく口を開けており、坑道の中を歩いて見学できる観光坑道となっていますが、江戸時代以前は山頂から北東側の産地（海拔150m～10m）の露頭部と浅所を採鉱したと思われます。金銀比率は1：6ほどで、銀分が多いため搗臼で碎き、比重選鉱、鉛を使った「合せ吹き」から「灰吹」の作業を経て、得た玉金を金座へ送るというような流れだったと想像されます。坑道を含む広大な敷地面積には砂金採り体験場も併設され、黄金に因んださまざまな商品を取りそろえたショップも充実しています。この土肥金山の少し先には、個人経営で観光公開している「龕付天正金鉱」があ

6月4日(金)

ります。土肥鉱脈群の中でも最西端にあり、近代の大開発の手が入っていないため、小規模ながら、江戸期のひ追い掘りや露頭掘りも見ることができます。

この2つの金山跡が近在しているため、江戸期から近代までの伊豆の金山の開発変遷の歴史をたどるうえでも良い見学場所と言えますが、実は、いずれの金山跡も詳細な調査はなされておらず、郷土史的な資料や市誌などに記されている内容以外、調査資料はないのが現状です。

そこで、関係の皆様のご協力をいただき、松江高専の久間英樹教授と現地調査の機会を得、非公開箇所も含めて確認しました。残念ながら「のみ角」は存在しませんでした。軌道が敷かれた大きな坑道に日本の産金を支えた近代鉱山の姿を垣間見ることができました。詳細なレポートはまた次号で紹介させていただきます。



## 研修レポート～埋蔵文化財について～

湯之奥金山博物館学芸員として配属になって一年、毎日が勉強です。そんな中、文化財行政がどのような仕組みなのかという基礎知識を広げることが、今後の金山や鉱山研究を深めていくためにも重要であるからという職場のサポートもあり、自分と同経験くらいの県内自治体の文化財行政担当の新任職員と共に、風土記の丘研修センターで5月に行われた3日間の「埋蔵文化財センター新任職員研修」に参加してまいりました。

座学と実地見学の講師は、私から見たらそれぞれ発掘現場におけるエキスパートである、センターや県の文化財担当の職員の方々でした。文化財保護法や関係手続きなどについての基礎的知識、実地見学では、国史跡に指定された「甲府城跡」で史跡整備の現状や課題などについて理解を深めました。書ききれないほどたくさんの学びがあったのですが、今の自分にとって特に考えさせられたことは「発掘調査といえども遺跡を破壊する行為である」ということです。まず、この言葉による強いインパクトで大きく打ちのめされました。

マスコミで「世紀の大発見か?!」と大仰な見出しをよく見かけますが、私の“発掘調査”のイメージはまさにそれでした。過去を多く明らかにするために、遺跡は掘れば掘るほどいろんなことがわかると思っています。例えば、調査報告書で遺構・遺物の一部しか掲載されていない図面や写真を見て、「一部ではなく、範囲を広げて全部掘ればもっとたくさんわかるのに!」と思っていたのです。しかし、実際はかなり私の思いと異なっていました。そもそも「遺跡を掘る」という行為は、その土地の状態を変えることにつながり、歴史を解明するために行っている発掘調査といえども、「破壊行為」と表裏一体といえるのです。

現在、多くの発掘調査は、都市開発などの工事に付随して行われるものがほとんどです。30年前の湯之奥金山の発掘調査のように、学術的な課題を解明するために行われるものはなかなかありません。開発工事などによって消滅の危機に瀕している現地保存で残せない文化財を、記録の上で残すための手段が、よく見られる発掘調査なのです。

例えば、地層Aの下の地層Bの文化層を見極めようとしたら、地層Aは崩す必要があります。しかし一度掘ってしまえば、掘る前の状態に戻すことはできません。そのため、地層Bを明らかにする前に、地層Aの徹底的

な解明が求められます。このことから「掘る」という選択肢以外に歴史を紐解く手段があるならば、遺跡の形は変えずにそのまま残す方法を模索する必要があるわけです。仮に、遺跡がある場所で建設に関わる掘削工事を行うような場合、文化層を破壊しないように盛り土をするという工夫もできます。“遺跡を残す”とは、こうした配慮が必要であり、そうしておけば、いつの日か再び誰かの手によって発掘の機会があった時には、より進んだ手法により、一層確かな歴史がわかるに違いありません。

将来、文化財にとって今よりもっと良い方法が出てくることが十分に考えられます。だから今は、できるだけ最小限の範囲で発掘調査を行い、遺跡に存在する重要な情報の取得とその記録・公開が求められるというわけです。もちろん、歴史の見落としがないようにするためには、自身のスキルアップが大前提であるわけですが。つまり「発掘」とは「ただ掘ればいい」という安易なことではなく、遺跡調査に携わる者には、こうした課題に応えられるだけの十分なスキルが求められるということ。この点こそには私は衝撃を覚えました。

これらの研修を通じて、今わかっている調査結果は、研究に携わってきた諸先輩方が私たちに残してくれた遺産であり、今、保存されている遺跡はかつての研究者たちが託してくれた大切なバトン。だからバトンを受け取る立場にいる私たちも、未来のために情報を蓄積しながら現地保存を模索していく…。そういうことの積み重ねで、これまでの研究が進んできたのだと強く感じました。

こうした研修の成果を、金山研究や日常の博物館活動に活かしていけるよう、学芸員としての幅広い見識を養うことや、そのためのスキルアップに取り組み、研鑽を積んでいきたいと思うところでありました。

(学芸員：伊藤佳世)



日々研修・・・(土肥金山の現場にて)

**新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を施したうえで開館しています。  
皆さまのご理解・ご協力をお願い申し上げます**

**■ ご来館に際して**

- マスク着用と、個票記入・受付への提出をお願いしています。また、入口でサーマルカメラでの自動検温を実施しています。発熱（37.5℃）が確認された場合、入館をお断りさせていただきます。

**■ 館内・展示室**

- 館内に手指消毒用アルコールを用意していますのでご利用ください。
- 外気を取り入れた換気を実施しています。
- 定期的な清掃・消毒、スタッフの検温や健康状態の確認、マスク着用と手洗いを徹底しています。

**■ 砂金採り体験室**

- 体験室の大幅開放による換気、グループごとに間隔を空け、対面にならない体験場所へのご案内を行っています。
- 体験室の入場定員を50人～60人までに制限しています。体験室内の定員を上回っている場合、混雑が解消されるまでお待ちいただきます。（5分～最大30分）慌てずにスタッフの指示に従ってください。

**■ その他**

- 上記記載内容に関わらず、状況に応じてスタッフからお客様にお声掛け等させていただく場合がございます。その際はスタッフの指示に従ってください。

**■ 講座・イベントの開催について**

- 会場の窓開放による換気の実施、定員制限、適切な間隔を保った着席場所を設定して開催しています。
- イベント開催・中止・変更などを含む開館状況の最新情報は、公式HPでお知らせします。
- すべてのイベントは、今後の状況により変更となることもあります。あらかじめご了承ください。また、その際には博物館公式HP、もーん父さんFB、Twitterでお知らせさせていただきます。各自ご確認ください。

**7/24**  
(土)

**砂金掘り大会ミニ & 砂金甲子園ミニ**

(午前：一般大会 午後：中高生大会)  
定員：各ミニ大会100人まで  
参加費：500円(大人も子どもも一律)

**8/1**  
(日)

**おしえて☆みやもん先生! 第13回 化学実験教室(全3コマ)**

対象：小中学生 ※要事前申込・重複参加可  
参加費：各コマ200円  
講師：宮本一弘 先生(東京開成中学校・高等学校教諭)  
実験テーマ：①『冷たさ体感!』 ②『身近なもので科学実験』 ③『不思議なカラーマジック!』

**8/11**  
(水)

**激烈☆おやこ金山探険隊—国史跡を全制覇! 中山金山を歩きつくそう!—**

対象：小中学生  
定員：子ども隊員10人(保護者は定員に含まれない)  
参加費：2,000円(銀地金材料費として)

※日程・内容など、全ての詳細は夏イベント周知チラシ、または博物館HPでご確認ください。

**編集後記**

本紙が皆様のお手元に届く頃には、夏休み直前。コロナ禍のステイホーム期間が多かったことで“自宅学習”も当たり前になっています。とはいえ、この時期は自分の興味のある「学び」に気付く絶好の機会。周りを眺めれば、意外とすぐそこに研究対象は転がっています。昨年に引き続き、当館の今年の夏イベントも手探りですが、感染症対策を施したうえで、上記夏イベントを開催します。夏休み自由研究プロジェクトin金山博、毎年大好評の化学実験教室、加えて「史跡活用イベント」の金山探険隊や砂金掘り大会など夏休み看板メニューも開催準備中。ただ今、各イベント参加申し込み受付中。対策バッチリで楽しんでいただきたいと思います。

**博物館だより**

第96号 令和3年6月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先  
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール [yunoking@town.minobu.lg.jp](mailto:yunoking@town.minobu.lg.jp) もーん父さん  